

令和3年度「成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業」 最終報告書

【背景】

近年の医療技術の進歩に伴い、家庭で医療的ケアを受けながら過ごす小児は年々増えてきている。2018年12月に成育基本法が施行され、2020年6月には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が制定された。

沖縄県は人口当たりの医療的ケア児数、人工呼吸児数が全国でも上位3県に入るが、小児在宅医療を常時応需可能な薬局は会員登録をしている薬局547店舗中38店舗にとどまっているのが現状である。そのため、医療的ケア児への薬学的情報に関しては、その多くが薬局で薬剤を受け取る際に家族に対して行われている可能性が高いと予想された。

また、沖縄県下の薬剤師生涯学習における高齢者在宅医療に関する分野は、地域毎で多職種連携等の研修会が開催されているが、小児在宅医療の分野に関してはまだそれほど多く開催されていない。

そこで、沖縄県薬剤師会として、同事業の運営・実施がより実現の高いと推測した中部地域において、市町村、医療関係団体等の関係機関と協力し、より充実した小児医療に向け、中部地区薬剤師会とともに、同事業を進めていくこととした。

同事業においては、小児医療に特化した薬剤師養成のための研修会の開催や、医師、歯科医師、看護師、コーディネーター等の関係職種との連携体制構築のための多職種連携会議の開催ならびに多職種連携シートを作成するなどの事業展開を行うこととした。

地域における小児薬物療法に係る専門性の高い薬剤師の育成、小児の医療機関と薬局の連携体制構築に向けた取り組みとして、地域の薬局が医療的ケア児の薬物治療を含めた療養生活を支援するため、入退院児に病院の相談支援専門員との連絡、担当保健師との療養支援定期連絡などに用いる多職種連携との情報連携シート（以下、連携シート）を作成し、トライアル運用を行った。

【目的】

以下の二つを目的として中部地区薬剤師会を中心に事業を行った。

- ①小児の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師を育成する
- ②小児医療にかかわる医療機関と薬局の連携体制を構築する（医療提供体制の確保）

【取り組み】

①小児の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師の育成に関して

①-1 中部地区薬薬連携研修会（その①）（参考資料⑤）

2021年12月15日（水）19:30～21:00

すこやか薬局 具志川店 薬剤師 新田有香氏

（目的）保険薬局薬剤師による薬薬連携と多職種との係わり・専門的薬学管理について

①-2 令和3年度成育医療分野における薬物療法等に係わる研修会（その②）（参考資料⑥）

～小児在宅医療と薬物療法の特殊性～

2022年2月4日（金）19:30～21:00

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児総合診療科 医師 松岡孝氏

（目的）医師による医療ケア児の薬物治療の実情と症例報告

①-3 令和3年度成育医療分野における薬物療法等に係わる研修会（その③）（参考資料⑦）

～多職種連携～

2022年2月13日(日) 10:00～11:30

沖縄県立泡瀬養護支援学校 白井紀子 氏(養護教諭)

NPO法人 障がい児サポートハウス Ohana 代表 名幸啓子 氏(保育士)

Kukuru 訪問看護ステーションムームー 代表理事 鈴木恵 氏(看護師)

すこやか薬局 野嵩店 石田浩 氏(薬剤師)

沖縄市障がい者基幹相談支援センター 高江洲夢美 氏(相談支援専門員)

患児の母 金城恵 氏

(目的) 医療ケア児を取り巻く多職種連携の現状と薬剤師の関わりについて

②小児医療にかかわる医療機関と薬局との連携体制の構築に関して

②-1 事業開始の案内(参考資料①)

県、市町村等の行政機関、医師会、歯科医師会、病院薬剤会等の関係団体、多職種へ文書で案内した。

②-2 ポスター作成(参考資料②)

②-3 連携シート作成及び運用(参考資料⑫⑬⑭)

(1回目:12月22日～1月4日 2回目:1月5日～2月28日)

連携シートは、医療的ケア児ご家族の協力が得られた中部地区薬剤師会の会員薬局にて、事業期間内に2回にわたりトライアル運用を行った。

②-4 実態調査

②-4-(1) 成育医療に関するアンケート(11月16日、3月5日)(参考資料⑧)

薬剤師が多職種と連携する際に用いる連携シートを作成し、中部地区薬剤師会の会員薬局111軒に対し、医療的ケア児の処方に関わる実態調査を行った。

実施方法

内容:実施者にて決定

方法:メールまたはFAX

期限:1週間

②-4-(2) 研修会後のアンケート(12月15日、2月4日、2月13日)(参考資料⑩⑪)

小児在宅医療を中心とした専門的な薬物療法と地域での療養生活について理解を深める目的で、医療的ケア児の療養に関わる医師、訪問看護師、保健師、その他専門職種による薬剤師向けの研修会を3回開催した。研修後の学習効果を比較するため同じ内容でアンケートを実施した。

実施方法

内容:実施者にて以下の4つに分類して評価した

①医療的ケア児の医学・薬学的内容に関する事

②医療的ケア児の生活にまつわる事

③医療的ケア児の療育・教育に関する事

④医療的ケア児の嗜好に関する事

方法:Google フォーム

期限：1週間

②-4-(3) 小児在宅稼働薬局の実態アンケート(12月7日)(参考資料⑨)

実際に小児在宅医療に係わっている薬局(中部地区薬剤会管内8薬局)を対象に実施。

(目的) 実働している薬局の実態を掘り下げて、連携シートの内容の参考にしたい。

内容：

- ・ 普段の小児在宅医療の薬剤師業務について
- ・ 医療的ケアを受ける家族について
- ・ 成育医療に係わる際の知識について

実施方法

内容：実施者にて決定

方法：メールまたはFAX

期限：1週間

【結果】

①地域における小児の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師の育成に関する取り組みの結果

①-1、①-2、①-3 研修会結果(参考資料⑩⑪)

研修会	周知 メール FAX	参加人数	医療的ケア児に関する以下の内容	目的
研修会 ①	111軒	現地9人 WEB15人 (内管理栄養士2人)	・ 法律 ・ 薬剤 1. 剤形選択 2. 調剤における工夫 3. 投与方法 4. 保管方法) ・ 栄養管理	保険薬局薬剤師による薬薬連携と多職種と係わり・専門性の薬学管理について
研修会 ②	547件	現地15人 WEB64人	・ 医療的ケア児の症例紹介(資料：スライドや映像) ・ 薬物療法において薬剤師に期待すること	医師による医療ケア児の薬物治療の実情と症例報告
研修会 ③	547件	現地17人 WEB45人	パネルディスカッションの開催 <パネリスト> ・ 医療的ケア児に関わる5職種 ・ 患児の母	・ 各職種の職務内容の紹介 ・ 連携シートを用いた薬剤師の係わりについて

②小児医療にかかわる医療機関と薬局との連携体制の構築に関する結果

②-1 事業開始の案内（参考資料①②③）

16 施設に、沖縄県薬剤師会より公的趣旨説明文書、要綱、ポスターを同封した。
中部地区管内の多職種連携機関には、別途作成した趣旨説明文、要綱、ポスターを同封した。

②-2 ポスターの作成結果（参考資料②④）

掲示可能な縦型と三つ折りにして配布できる横型の 2 種類を作成した。
沖縄市より、ポスター内容をもっとわかり易くするよう要望があり、再度編集を行なった。

②-3 連携シート運用結果

内容	1 回目	2 回目
トライアル件数	5 件	33 件
連携シート活用薬局	1 件	6 件(相談内容・その他下記) 薬学的相談：0 件 生活上相談：5 件 オリジナルシート活用：1 件

②-4-(1) 成育医療に関するアンケート結果（中部地区薬剤会会員 111 薬局）

内容	運用前	運用後
アンケート回答薬局数	38 薬局	22 薬局
質問内容 「成育医療を知っていますか？」	はい：8 件 いいえ：18 件 少しわかる：12 件	はい：10 件 いいえ：2 件 少しわかる：7 件 無回答：2 件
質問内容 「小児在宅医療に関する研修会があれば参加する」	はい：30 件 いいえ：4 件 無回答：3 件	はい：17 件 いいえ：1 件 無回答：3 件

②-4-(2) 研修会後のアンケート結果（自由記載分）

良かった点について

- ・ 患児の親の心情などが伝わった。
- ・ 滅多に聞けない小児在宅医療について聞いて良かった。
- ・ 症例が多く家族の気持ちに触れられて共感できた。
- ・ 薬剤師に求められていることが分かった。
- ・ 多職種（看護師や養護教諭など）の意見が多角的に聞ける良い機会だった。
- ・ 薬剤師も積極的に関わることが必要だと思った。
- ・ 多職種の話しをもっと詳しく聞きたくなった。

薬局はどのような取り組みを広げた方が良いかについて

- ・個別対応の共有（例：経管のアダプター注文、被覆材など衛生材料の取り寄せなど）
- ・かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師のアピール
- ・患者様で提供できるサービスや関連部署についての啓蒙活動
- ・薬剤師の意識改革・人材補充・環境整備（車椅子やバギーが入るように）
- ・子供や家族の関係職種との連携体制
- ・活動やパブリッシュを通して少しでも役に立つよう努力する。
- ・責任感を持ち、家族や多職種とのコミュニケーションを積極的にとる。
- ・特殊な調剤法や多職種連携など継続的研修参加
- ・薬局自体も薬業連携として、近隣の薬局との連携の必要性

②-4-(3) 小児在宅稼働薬局の実態アンケートの結果（参考資料⑨）

アンケートは全 11 項目で、その設問を、①普段の薬剤師業務について、②ケアを受ける家族について、③学術的なことに関して、の 3 つに分類した。

①の普段の薬剤師業務について、「はい」を答えたものは 36 件（36/53）、②のケアを受ける家族について、「はい」を答えたものは 13 件（13/16）、③の学術的なことに関して「はい」を答えたものは 3 件（3/8）であった。

<連携機関・広報等>

I 事業連携機関	II 事業成果 ポスター・広報誌等
<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄県立南部医療センター・こども医療センター ○沖縄県中部保健所 ○訪問看護ステーションムームー ○医療的ケア児のご家族 ○障がい児サポートハウス Ohana ○沖縄県立泡瀬養護支援学校 ○沖縄市障がい者基幹相談支援センター ○沖縄市 	<ul style="list-style-type: none"> ○他関係機関 沖縄市役所：広報誌 5 月号 地元新聞社：取材 3 月 23 日 ○地域住民への周知 沖縄市役所内でポスター掲示（参考資料⑤） ○沖縄県薬剤師会会報誌 事業内容および研修会報告掲載

【考察】

取り組み①の専門性の高い薬剤師育成のための研修会に関して。

研修会参加者のアンケート回答より、児や家族のサポートになれるように、薬剤師の意識改革、薬局内の環境（バギーで入れる様な入口、おむつ交換場所等）の確保、薬業連携の必要性、利用できるサービスや関連部署の照会や衛生材料衛生材料などの取り寄せなども重要な薬局の取り組みである等の意見があった。研修前後に行った意識調査では、医療的ケア児に係る際の確認事項として「児の生活の視点に関して」意識の向上がみられた。小児在宅稼働薬局の実態アンケートの結果からは、回答者の 3 分の 2 で日頃の薬剤師業務の中で医療的ケア児に関する関わりがあると回答した一方、成育医療に係る勉強会に参加したことあると回答したのは、回答者の 3 分の 1 であった。このことは、地域の薬局が、成育医療に関する相談等の窓口として機能する可能性があるものの、薬剤師の専門的研修が進んでいないことを示唆するものと考えられる。

今回、第1回の研修会で小児在宅医療を行っている薬剤師に、薬学的視点からの講義、第2回に特殊な医療環境・薬物治療について医師からの講義、最後に、児の生活周辺、療養環境に係る専門職種からの講義と、視座を広げる形で研修会を重ねてきた。研修会のテーマとしては、「医療ケア児を取り巻く多職種連携の現状と薬剤師の関わり」に関して、参加者の満足度が高かった。今回の事業では、薬剤師の関心が高いと思われるテーマを中心に研修会を行い、薬剤師の成育医療分野における意識の変化に関しては一定の成果を上げることができた。

今後の研修会のテーマとしては調剤技術面の向上や対人業務において効果が得られる内容となることが重要と考える。

取り組み②-3 連携シートに関して。

今回使用した連携シートの項目は、相談内容と回答内容が自由に記載できるような形式だったため、薬学的相談よりも日常的な相談に活用されたのではないかと考える。連携シートの相談件数が少なかった原因として、医療的ケア児の定義に対する薬剤師の認識があいまいでシート配布する対象者であるかどうか判断できなかったことや、連携シートの運用期間が短かったことによる連携シート自体の配布枚数が少なかったことが挙げられる。また患者家族や多職種の観点からすると、地域によっては既に活用している連携シートが存在するため新しい連携シートに記載することが思いつかなかった可能性も考えられる。

研修会③の機会に、連携シートに関わる病院の相談支援専門員、訪問看護師、保健師、その他医療ケア児に関わる専門職種から連携シートに関する意見や改善点を直接聴取することができた。

患児及びその家族が、地域の学校やレクリエーション等の生活の場面においても医療的ケアの程度に応じた支援を継続して受けられるような支援が必要であることがわかった。だが聴取した意見を連携シートに反映して運用することに関して、本事業期間内だけでは時間的余裕がなかった為次年度以降の検討事項とする。

事業を通して、地域で支える多職種の一員として薬局の薬剤師も成育医療分野における専門性を高めていくことが重要であること、また地域医療の専門職種の一員として小児在宅医療に積極的に関わっていく必要があることを結論とする。

【展望】

本事業が、地域モデルとして他の地域に横展開をする際には、前記の検討課題を考慮し進展していきたい。具体的には、

1. 本事業において活用する目的で多職種連携シート（薬局保管用・患者様用）とその取り扱い説明書を中部地区薬剤師会で新規作成した。沖縄県薬剤師会ホームページにこれまで成育医療分野の多職種連携シートに関する項目がないため、県下の他地区薬剤師会においても活用できるように沖縄県薬剤師会ホームページに掲載して啓発する。
2. 成育医療分野における薬物療法等に関わる保険薬局薬剤師が増えるように、小児在宅医療や医療的ケア児に関する法律、成育医療・小児在宅医療の特殊な薬物療法や投薬タイミング、入退院時の薬薬連携や現状等について研鑽を積んでいけるように、研修の企画、実施をする。
3. 保険薬局薬剤師が現時点において、多職種連携にて使用する連携ツールや薬薬連携、地域の市町村や医療機関と関わりが少ないと感じたため、市町村で開催される研修会や会議等に参加し、顔の見える薬剤師として積極的に多職種と連携をしていきたい。

参考資料

○周知案内文書・広報ポスター関連

- ①事業実施案内文書
- ②ポスター（縦・横）
- ③送付先リスト
- ④沖縄市役所ポスター掲示写真

○研修会関連

- ⑤研修会①「中部地区薬薬連携研修会」案内（12月15日開催）
- ⑥研修会②「小児在宅医療と薬物療法の特殊性」案内（2月4日開催）
- ⑦研修会③「多職種連携」案内（2月13日開催）

○アンケート関連

- ⑧成育医療に関するアンケート・集計結果（11月16日、3月4日）
- ⑨小児在宅稼働薬局の実態アンケート（12月7日、8薬局対象）
- ⑩研修会 Google アンケート：①（12月15日）・②（2月4日）・③（2月13日）
- ⑪研修会アンケート結果・グラフ：①（12月15日）・②（2月4日）・③（2月13日）

○連携シート関連

- ⑫取り扱い説明
- ⑬連携シート（薬局保管用）
- ⑭連携シート（患者様用）

○他機関との連携ツール関連

- ⑮サポートノートえいぶる
- ⑯医療的ケア児等医療情報共有システム（MEIS）